

第 25 回参議院議員通常選挙における若年層の意識調査について

公益財団法人 明るい選挙推進協会

明るい選挙推進協会では、若者の政治意識を探るため、第 25 回参議院議員通常選挙後、全国の 18 歳から 24 歳の男女 2,000 人を対象に、選挙権年齢が 18 歳に引き下げられた 3 年前（2016 年）の参院選後に実施した調査の質問に一部質問を加え、同じ調査方法により、意識調査を実施しました。

調査の概要

1 調査目的

新有権者をはじめ若者の政治選挙に関する意識を調査し、今後の選挙啓発等の資料とするため。

2 調査対象

全国の満 18 歳から 24 歳までの男女 2,000 人（国勢調査ベースの人口分布に基づき、性別、年代、居住都道府県ごとに必要となるモニターを抽出）

3 調査方法

インターネット調査法

4 調査期間

令和元年 8 月 26 日（月）から 8 月 28 日（水）

1 調査対象モニター基礎情報

(1) 性・年齢別モニター数

	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	合計
男性	127	160	135	133	164	162	143	1,024
女性	126	155	117	126	138	154	160	976
合計	253	315	252	259	302	316	303	2,000

(2) 居住エリア別モニター数

	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	合計
北海道	7	14	11	10	8	10	13	73
東北	19	19	10	14	18	23	16	119
関東	16	18	10	17	17	23	12	113
京浜/一都三県	77	98	87	86	97	98	91	634
北陸	11	17	14	17	13	14	17	103
東海	24	45	20	32	36	36	46	239
京阪神	48	52	46	45	58	55	43	347
中国	13	17	18	11	23	12	16	110
四国	8	6	8	7	6	7	8	50
九州	30	29	28	20	26	38	41	212
合計	253	315	252	259	302	316	303	2,000

*インターネット調査のため回答は調査対象者全員から得ている。

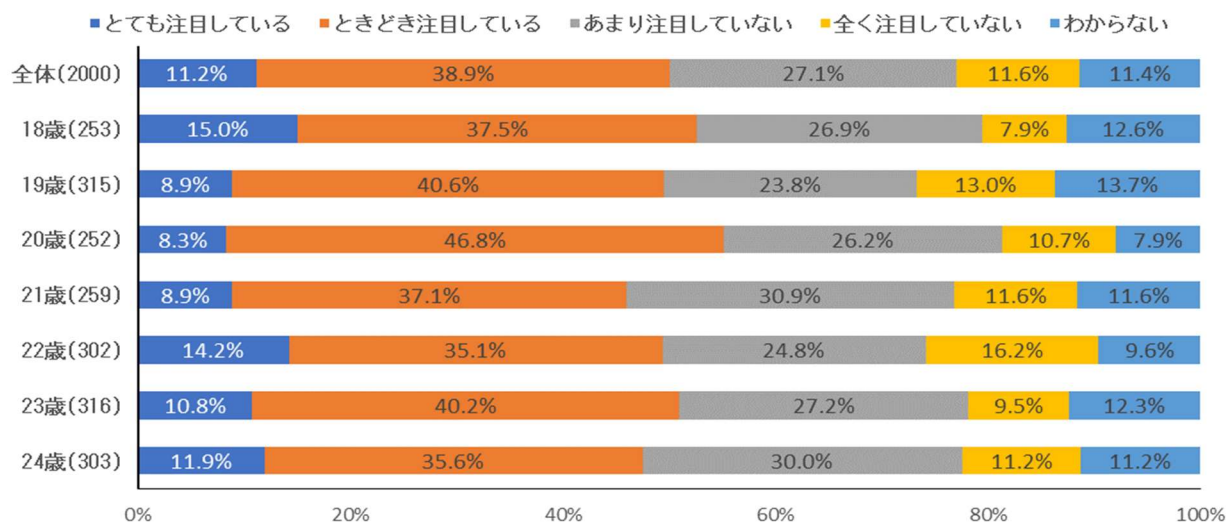
2 主な調査結果

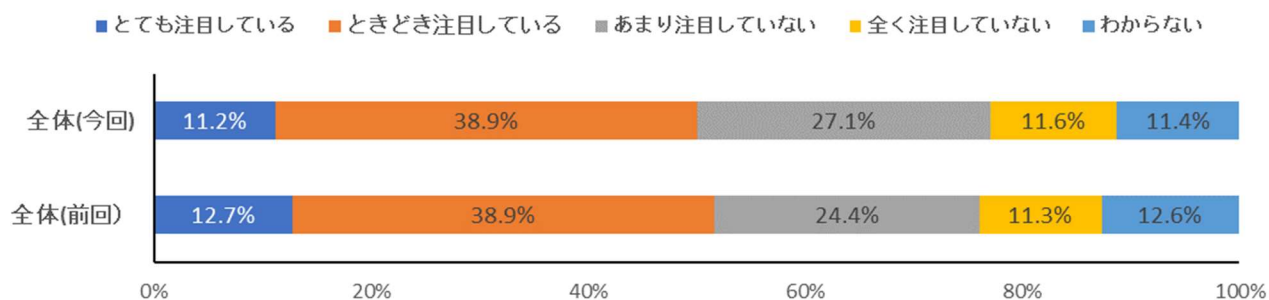
① あなたは、国や地方の政治の動向にどの程度注目していますか。

調査対象者全員（2,000人）に、国、都道府県、市区町村それぞれの政治への「注目度」を尋ねた。

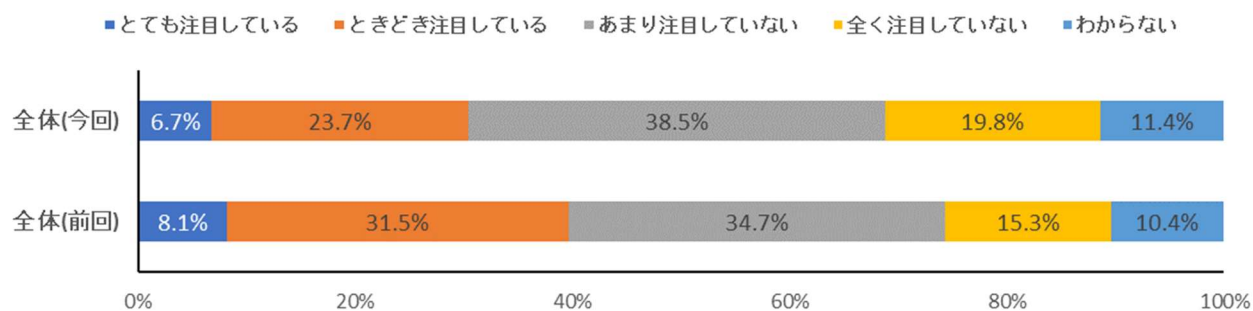
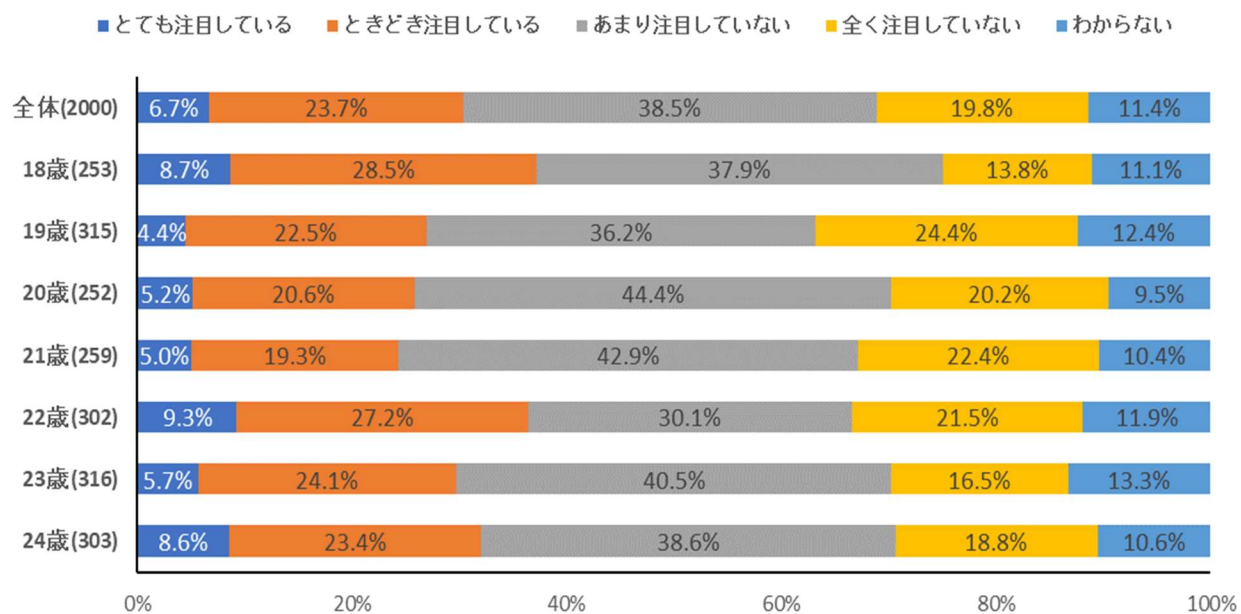
全体で見ると、国へは50.1%が、都道府県へは30.4%が、市区町村へは27.4%が「注目している（とても＋ときどき）」と回答した。国が最も高く、5割を超えた。3年前の調査結果（以下、前回という）と比べてみると、注目度が高いのは国、都道府県、市区町村の順で今回と変わらないが、いずれも前回より低く、中でも都道府県への注目は前回より9.2ポイント低かった。

ア 国の政治への注目



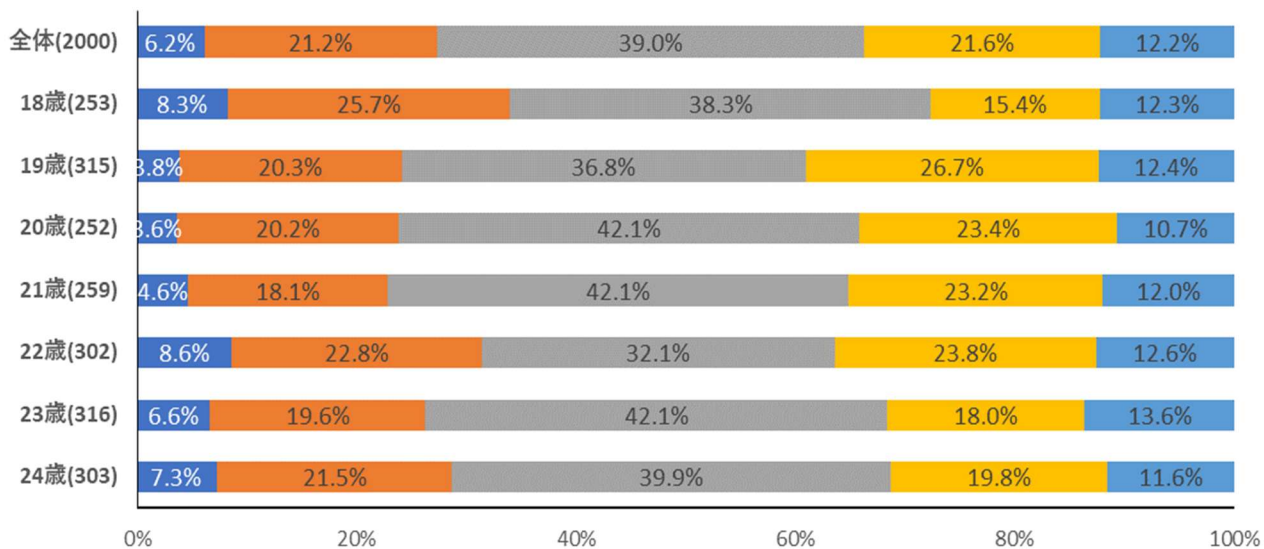


イ 都道府県の政治への注目

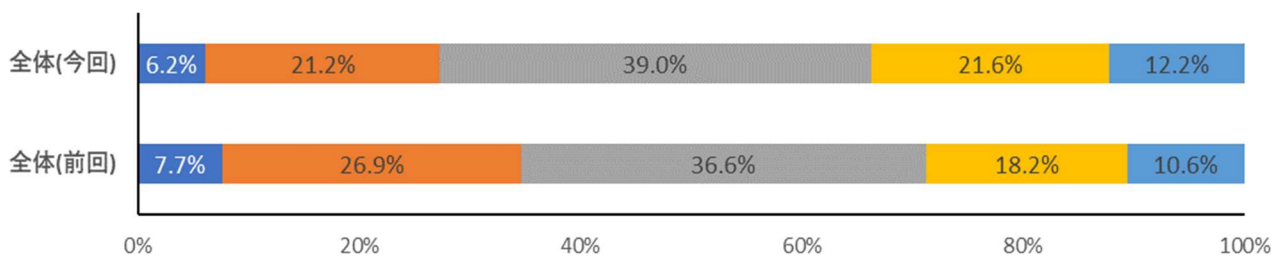


ウ 市区町村の政治への注目

■ とても注目している ■ ときどき注目している ■ あまり注目していない ■ 全く注目していない ■ わからない



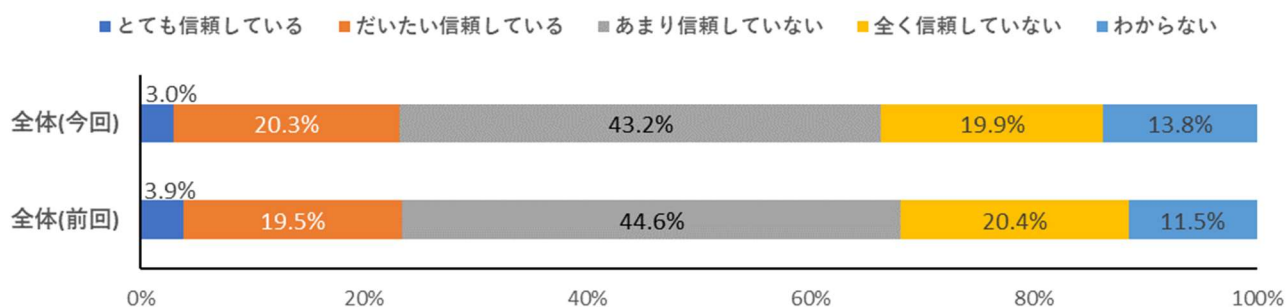
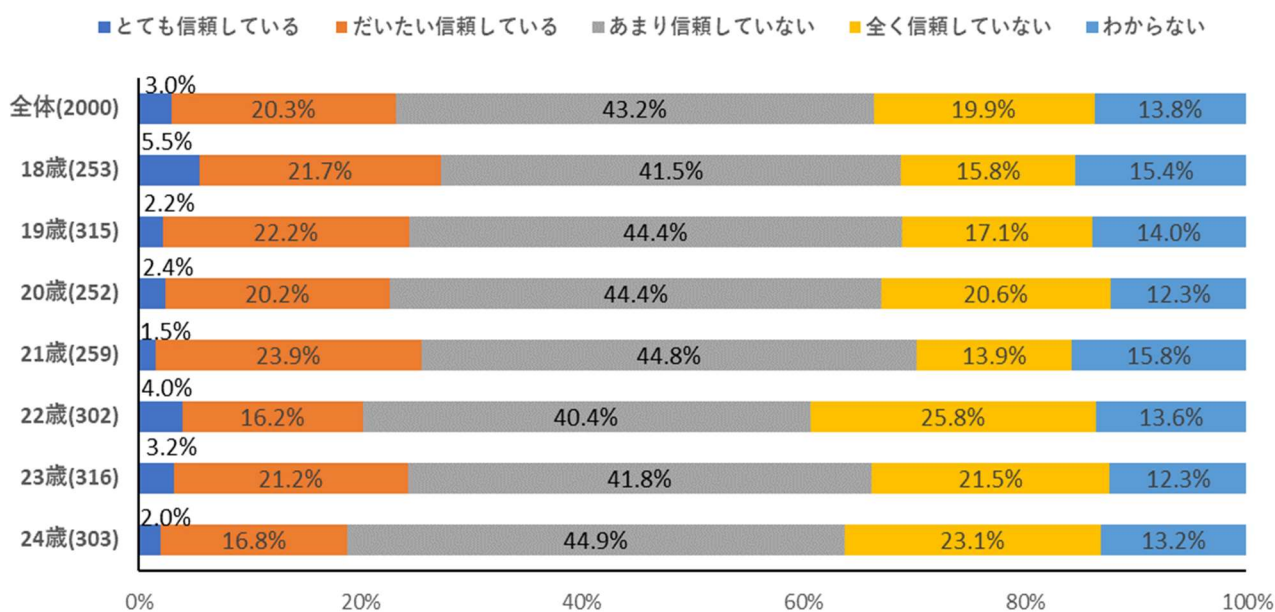
■ とても注目している ■ ときどき注目している ■ あまり注目していない ■ 全く注目していない ■ わからない



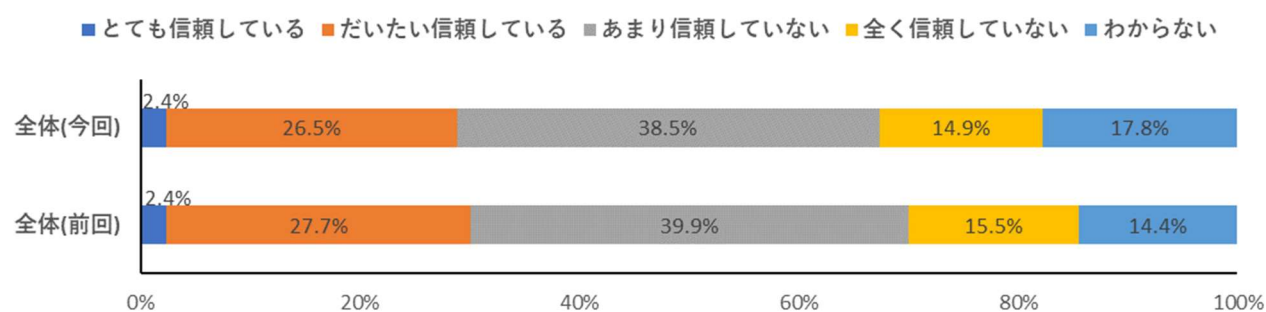
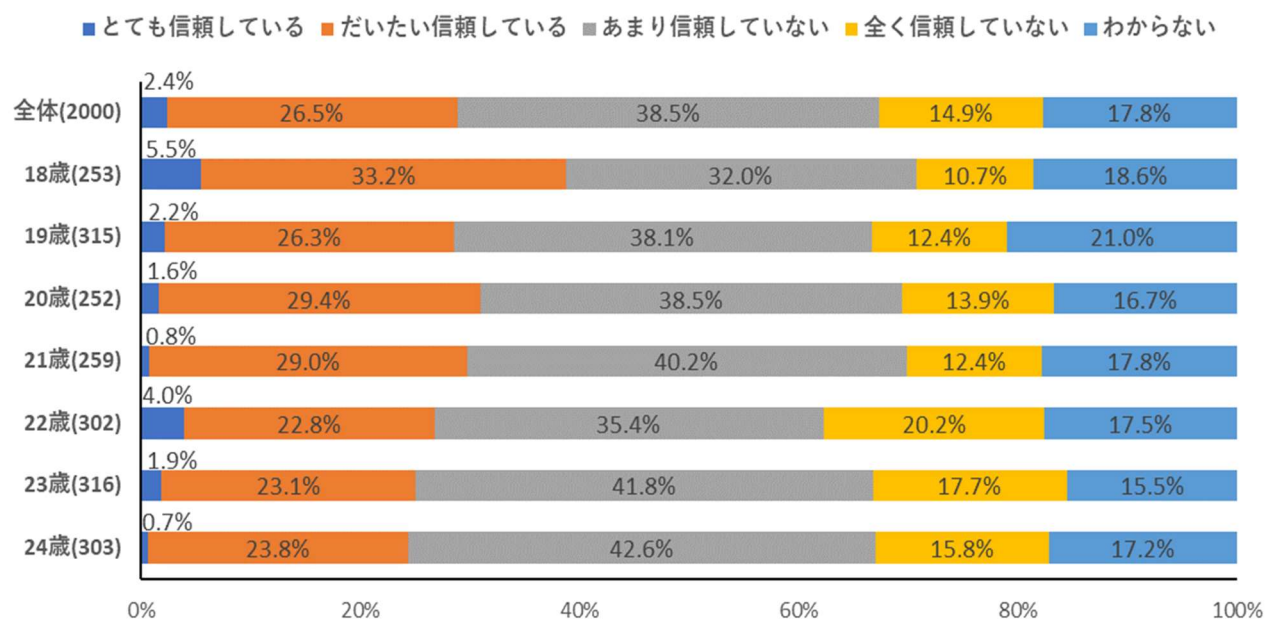
② あなたは、国や地方の政治をどの程度信頼していますか。

調査対象者全員に、国、都道府県、市区町村それぞれの政治への「信頼度」を尋ねた。全体でみると、国へは23.3%が、都道府県へは28.9%が、市区町村へは30.6%が「信頼している（とても＋だいたい）」と回答しているが、いずれのレベルも政治への信頼は低い。特に国の政治への信頼度は、注目度とは相反し最も低かった。前回の調査結果をそれぞれのレベルに併記しているが、今回も前回と同様の結果であったことが確認できる。

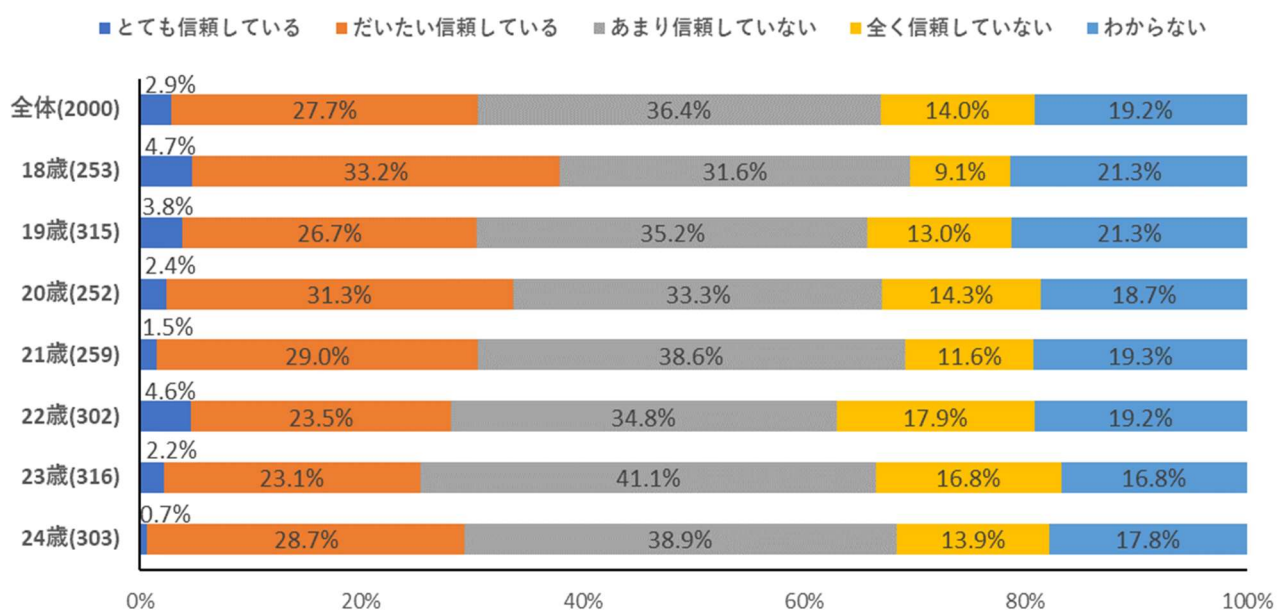
ア 国の政治への信頼

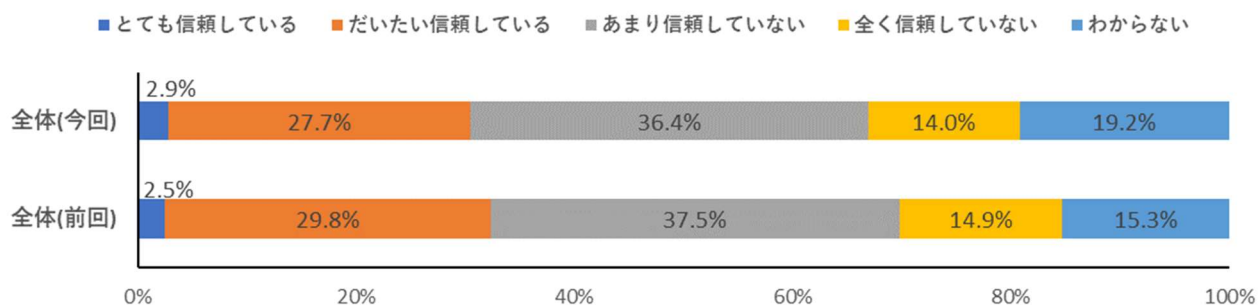


イ 都道府県の政治への信頼



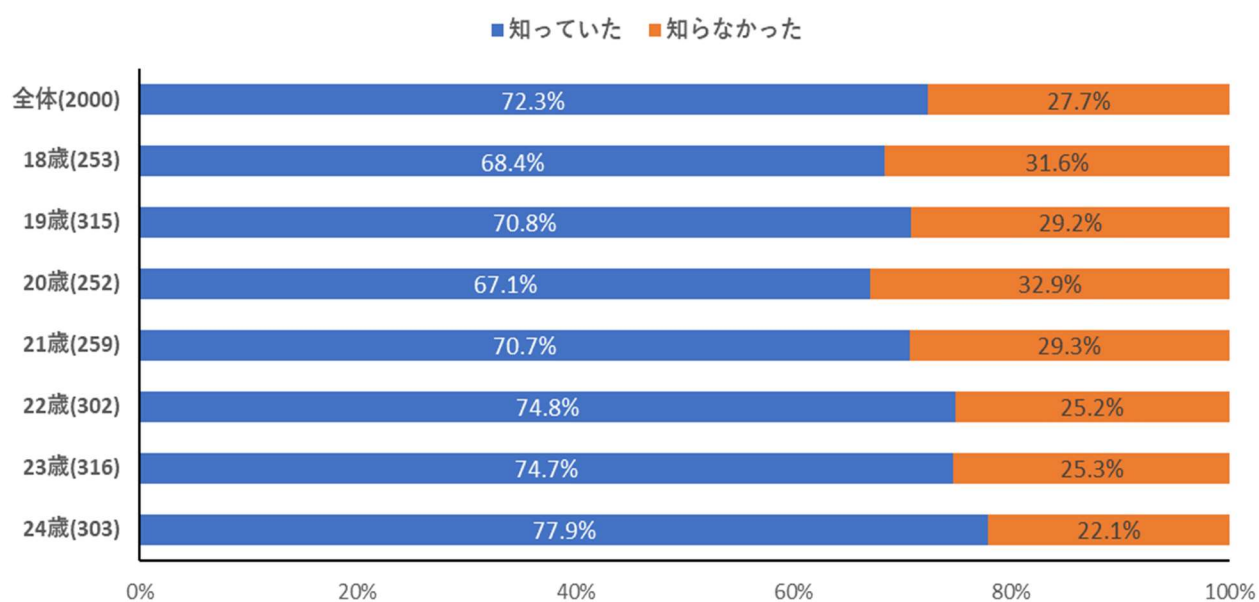
ウ 市区町村の政治への信頼





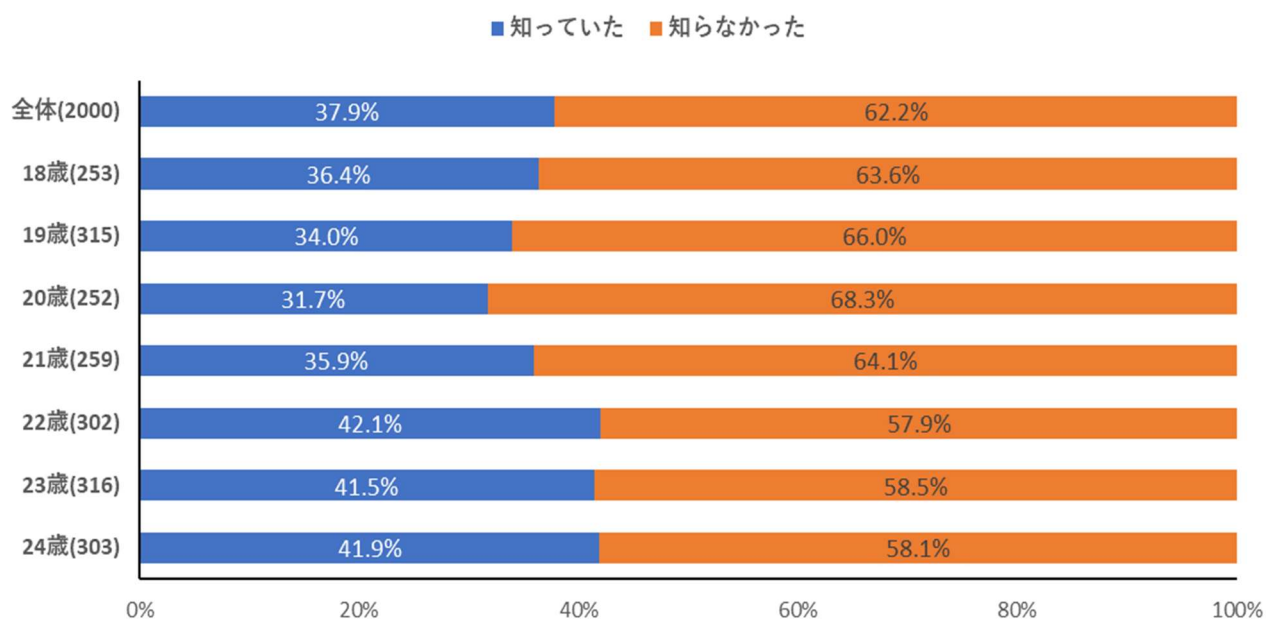
③ 進学や就職などに伴い、実家などを離れる方は、引っ越し先の市区町村へ住民票を移さなければなりません。あなたはこのことをご存知でしたか。

調査対象者全員に、引っ越し等の際の住民票異動についての知識の有無を尋ねた。「知っていた」と回答したのは全体では72.3%であった。前回は76.7%であったため、今回は約4ポイント低かったが、依然として7割強の人は認知していた。年齢別では、前回と同じく特別な傾向はうかがえなかった。



④ 現在住んでいる市区町村で投票をするには、住民票を移してから3ヶ月以上住んでいなければなりません。あなたは、このことをご存知でしたか。

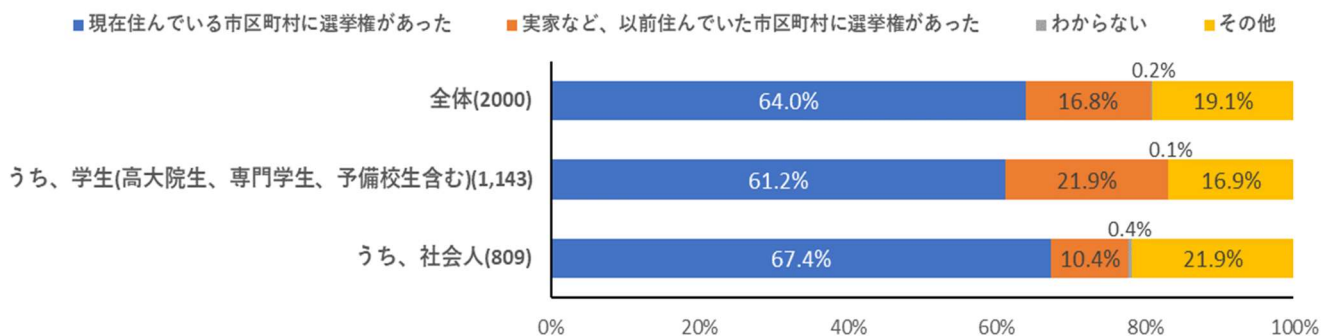
調査対象者全員に、投票と住民票異動の関係についての知識の有無を尋ねた。「知っていた」人は上記③よりさらに少なく、全体で37.9%で、前回の42.8%より約5ポイント低かった。



⑤ あなたは現在住んでいる市区町村に、7月21日(日)に行われた参院選の選挙権がありましたか。

調査対象者全員に聞いた。全体では「現在住んでいる市区町村に選挙権があった」のは64.0%、「実家など、以前住んでいた市区町村に選挙権があった」は16.8%、「わからない(その他含む)」は19.3%であった。

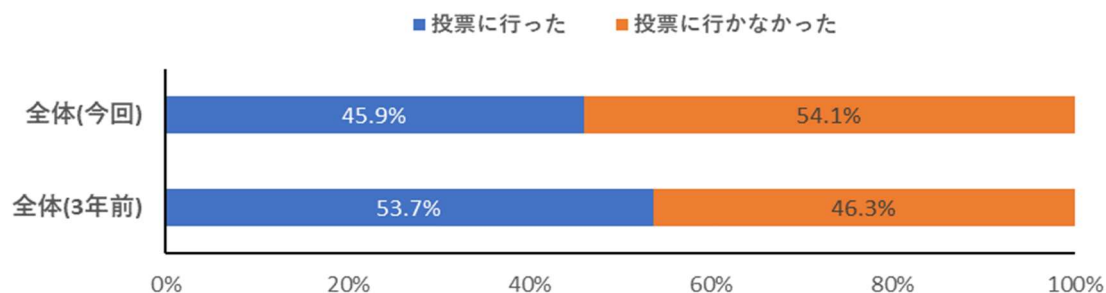
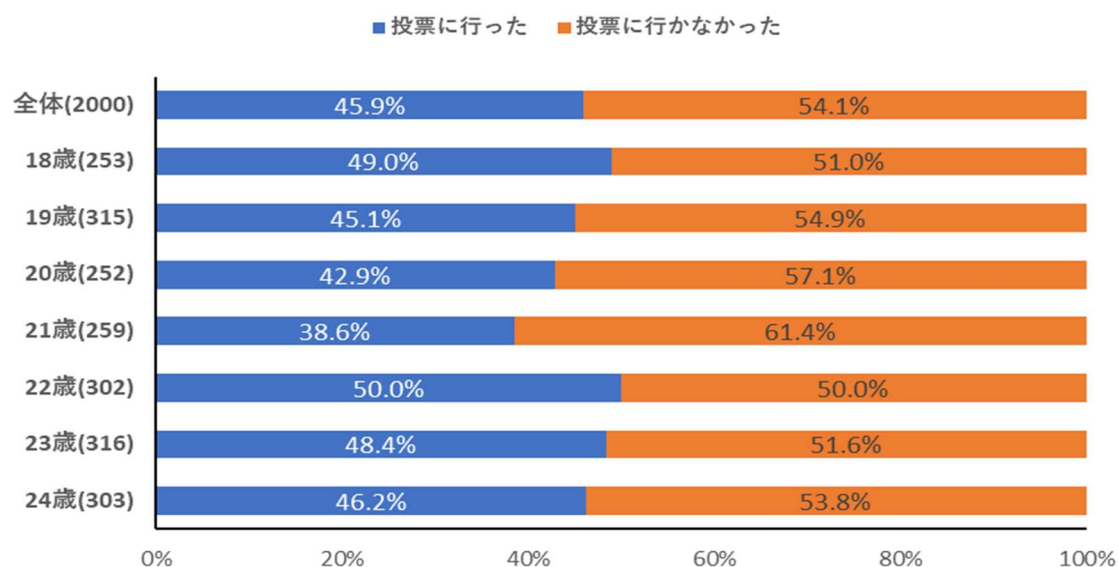
これを学生と社会人に区分して見ると(下図)、学生の61.2%、社会人の67.4%が「現在住んでいる市区町村に選挙権があった」と回答している。



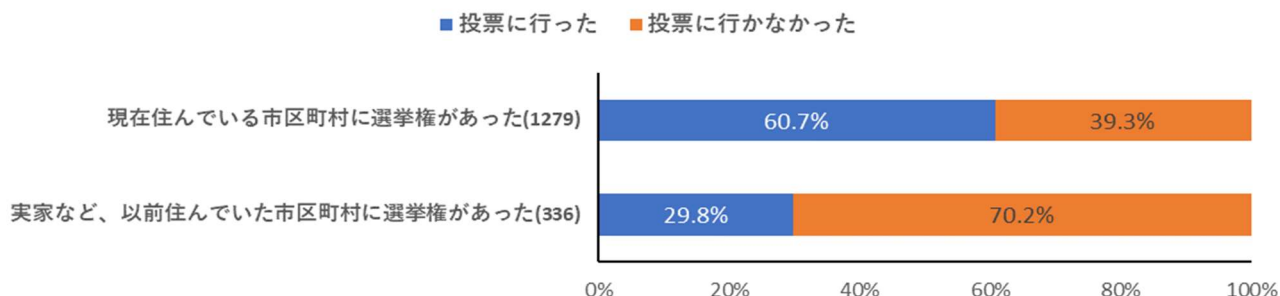
⑥ あなたは、7月21日（日）に行われた参議院選挙で、投票に行きましたか（期日前投票、不在者投票を含む）。

調査対象者全員に投票に行ったかどうか尋ねたところ、全体で 45.9%の人が「投票に行った」と回答した。年齢別では 18 歳の 49.0%から 21 歳の 38.6%まで微減していき、以降、50%周辺を推移する。

このような意識調査では、実際の投票率よりも高めに出る傾向がある点を留意の上、見ていく必要がある。なお、今回の参院選における全体の投票率は 48.80%（選挙区選挙・速報値）で、抽出による年齢別投票率では 18 歳の投票率は 34.68%、19 歳は 28.05%であった（総務省調）。



現在住んでいる市区町村に選挙権が「ある」と「ない」とに区分して、それぞれの投票行動を見ると、下図のとおり、現在住んでいる市区町村に選挙権がある人が、ない人より約 30 ポイント、投票に行った割合が高かった。



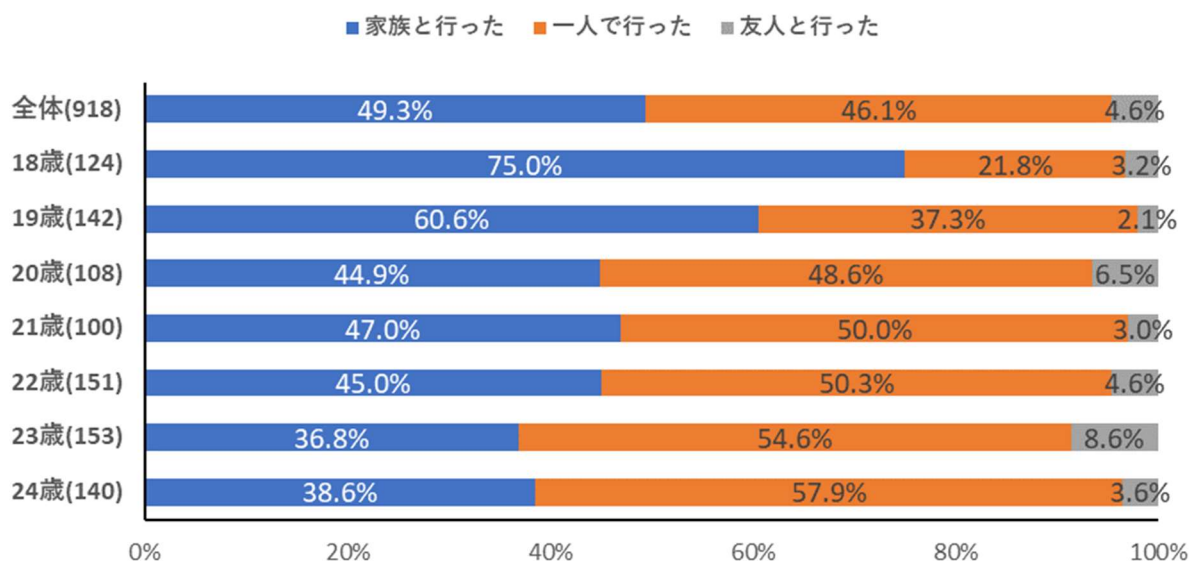
⑦ 7月21日（日）の投票日当日に投票しましたか、それとも期日前投票又は不在者投票をしましたか。

参議院選挙の投票に行った人(918人)にその投票方法を尋ねた。全体で見ると、「当日投票をした（現在の市区町村＋以前の住所地）」が最も多く66.3%、次いで「期日前投票をした（現在の市区町村＋以前の住所地）」が29.3%、「不在者投票をした」人は2.6%であった。参院選の場合、16日間、期日前投票等ができる機会があったが、約3分の2は投票日当日に投票したと回答している（前回も67.9%が投票日当日に投票したと回答している）。また、期日前投票をした人の割合も、全投票者による実際の割合（33.0%）とほぼ同様の結果となっている。

	現在住んでいる市区町村で、投票日当日に投票した	現在住んでいる市区町村で、期日前投票をした	実家など以前の住所地に限り、投票日当日に投票した	実家など以前の住所地に限り、期日前投票をした	不在者投票をした	わからない
全体(918)	61.4%	24.8%	4.9%	4.5%	2.6%	1.7%
18歳(124)	72.6%	17.7%	2.4%	3.2%	3.2%	0.8%
19歳(142)	62.7%	24.6%	5.6%	5.6%	1.4%	0.0%
20歳(108)	60.2%	21.3%	6.5%	3.7%	4.6%	3.7%
21歳(100)	60.0%	27.0%	6.0%	3.0%	2.0%	2.0%
22歳(151)	58.9%	25.8%	4.6%	6.0%	2.6%	2.0%
23歳(153)	54.2%	28.1%	7.2%	6.5%	2.0%	2.0%
24歳(140)	62.9%	27.9%	2.1%	2.1%	2.9%	2.1%

⑧ あなたは参議院選挙の投票は誰と行きましたか。

参議院選挙の投票に行った人(918人)に尋ねたところ、全体では49.3%の人が家族と、46.1%の人が一人で、4.6%の人が友人で行ったと回答した。年齢別では18歳、19歳が家族で行った割合が高いが、20歳以上は約半数が「一人で行った」と回答した。



⑨ あなたが投票に行ったのはどういう気持ちからですか。次の中からあなたの考えに近いものをいくつか選んでください。

参議院選挙の投票に行った人(918人)に尋ねた。上位3つを全体で見ると「投票をするのは国民の義務だから」(今回42.2%、前回42.8%)が最も多く、次いで「政治をよくするためには、投票することが大事だから」(今回38.3%、前回41.0%)、「選挙に行ったほうがなんとなくいいと思ったから」(今回33.3%、前回31.9%)の順となっている。選択率は異なるものの前回と同じ並びであった。年齢別にみてもこの並びに大きな違いはみられない。(21・23歳は、「若い人の声を政治に届けたかったから」が3位に入っている)

	支持する政党があったから、または当選させたい候補者がいたから	若い人の声を政治に届けたかったから	親や先生から投票に行くように言われたから	政治をよくするためには、投票することが大事だから	投票をするのは国民の義務だから	有権者となって初めての国政選挙だったから	選挙に行ったほうがなんとなくいいと思ったから	その他
全体(918)	15.8%	30.5%	14.7%	②38.3%	①42.2%	9.4%	③33.3%	3.6%
18歳(124)	12.9%	22.6%	24.2%	②32.3%	①44.4%	28.2%	③29.8%	2.4%
19歳(142)	16.2%	28.9%	19.7%	②31.0%	①35.9%	15.5%	③29.6%	4.9%
20歳(108)	20.4%	31.5%	17.6%	②38.9%	③36.1%	6.5%	①39.8%	6.5%
21歳(100)	18.0%	③36.0%	9.0%	②43.0%	①44.0%	3.0%	27.0%	4.0%
22歳(151)	16.6%	32.5%	11.3%	③39.7%	①41.1%	4.0%	②40.4%	4.0%
23歳(153)	16.3%	③32.7%	11.8%	②40.5%	①41.2%	4.6%	32.0%	2.0%
24歳(140)	11.4%	30.0%	10.0%	②43.6%	①52.1%	4.3%	③33.6%	2.1%

⑩ あなたが比例代表選挙で投票したのは何党、または何党の候補者でしたか。

参議院選挙の投票に行った人の内、「何も書かなかった」、「わからない・答えたくない」を選択した人を除いた人(654人)について、投票先を尋ねた。全体では自由民主党に39.8%、立憲民主党に15.9%、公明党に8.6%、日本維新の会に8.0%、国民民主党に7.0%の人が投票したと回答した。

今回の参院選での得票率は、自由民主党35.37%、立憲民主党15.81%、公明党13.05%、日本維新の会9.80%、国民民主党6.95%であった。

	自由民主党	立憲民主党	公明党	日本維新の会	国民民主党	NHKから国民を守る党	れいわ新選組	日本共産党	社会民主党	その他の党
全体(654)	39.8%	15.9%	8.6%	8.0%	7.0%	6.7%	6.4%	4.7%	1.1%	1.8%
18歳(85)	36.5%	16.5%	9.4%	10.6%	4.7%	7.1%	4.7%	8.2%	1.2%	1.2%
19歳(92)	42.4%	16.3%	13.0%	4.3%	3.3%	10.9%	7.6%	1.1%	0.0%	1.1%
20歳(78)	41.0%	15.4%	10.3%	5.1%	10.3%	7.7%	7.7%	1.3%	0.0%	1.3%
21歳(79)	39.2%	15.2%	7.6%	5.1%	7.6%	6.3%	8.9%	7.6%	1.3%	1.3%
22歳(103)	42.7%	16.5%	1.0%	9.7%	9.7%	3.9%	5.8%	5.8%	1.0%	3.9%
23歳(119)	38.7%	16.0%	9.2%	10.1%	6.7%	7.6%	4.2%	4.2%	2.5%	0.8%
24歳(98)	37.8%	15.3%	10.2%	9.2%	7.1%	4.1%	7.1%	5.1%	1.0%	3.1%

(「投票に行かなかった」と回答した人に)

- ⑪ 投票に行かなかったのは、なぜですか。次の中からあなたの考えに近いものをいくつでも選んでください。

参議院選挙の投票に行かなかった人(1082人)に10の選択肢の中から当てはまるものをすべて選んでもらった。上位3つを全体で見ると「面倒だったから」(今回 29.8%、前回 29.4%)が最も多く、次いで「選挙にあまり関心がなかったから」(今回 28.5%、前回 26.4%)、「どの政党や候補者に投票すべきかわからなかったから」(今回 18.9%、前回 18.7%)であった。

年齢別では順位に入れ違いはあるものの、いずれの年齢も上記の3つの棄権理由が上位に位置している。

	どの政党や候補者に投票すべきかわからなかったから	選挙結果がどのような影響をもたらすかわからなかったから	今住んでいる市区町村で、投票することができなかったから	私一人が投票してもしなくても世の中は変わらないと思ったから	自分のように政治のことがよくわからない者は投票しない方がいいと思ったから	今の政治を変える必要がないと思ったから
全体(1082)	③18.9%	5.2%	15.9%	15.3%	11.3%	2.8%
18歳(129)	①26.4%	4.7%	20.2%	14.0%	14.0%	2.3%
19歳(173)	19.1%	2.9%	③23.1%	12.1%	12.7%	2.3%
20歳(144)	13.9%	4.9%	③18.1%	13.2%	9.0%	2.1%
21歳(159)	11.9%	7.5%	③20.1%	14.5%	9.4%	0.6%
22歳(151)	③15.9%	3.3%	③15.9%	14.6%	5.3%	2.6%
23歳(163)	③20.2%	4.3%	7.4%	15.3%	13.5%	6.1%
24歳(163)	③25.8%	8.6%	7.4%	23.3%	14.7%	3.1%

	選挙によって政治は良くなれないと思ったから	選挙にあまり関心がなかったから	面倒だったから	その他	わからない
全体(1082)	12.3%	②28.5%	①29.8%	10.2%	12.7%
18歳(129)	8.5%	③22.5%	②25.6%	9.3%	11.6%
19歳(173)	11.0%	②26.0%	①26.6%	11.6%	8.7%
20歳(144)	14.6%	①29.2%	②28.5%	9.0%	11.8%
21歳(159)	7.5%	②26.4%	①33.3%	10.1%	13.8%
22歳(151)	11.3%	②23.2%	①29.8%	9.3%	17.2%
23歳(163)	12.9%	①34.4%	②24.5%	11.7%	12.9%
24歳(163)	19.6%	②36.2%	①39.3%	9.8%	12.9%

- ⑫ あなたが、政治や選挙に関して見たり聞いたりしたものが下記の中にありますか。あればいくつでも答えてください。

調査対象者全員に15の選択肢の中から当てはまるものをすべて選んでもらった。全体では「政党や候補者のポスター」(今回 43.1%、前回 45.1%)、「テレビのニュースや報道番組」(今回 26.3%、前回 32.1%)、「政党や候補者の政見放送」(今回 22.2%、前回も 22.2%)が上位3つとなっている。年齢別に見ても同じ選択肢が上位に挙げられている。

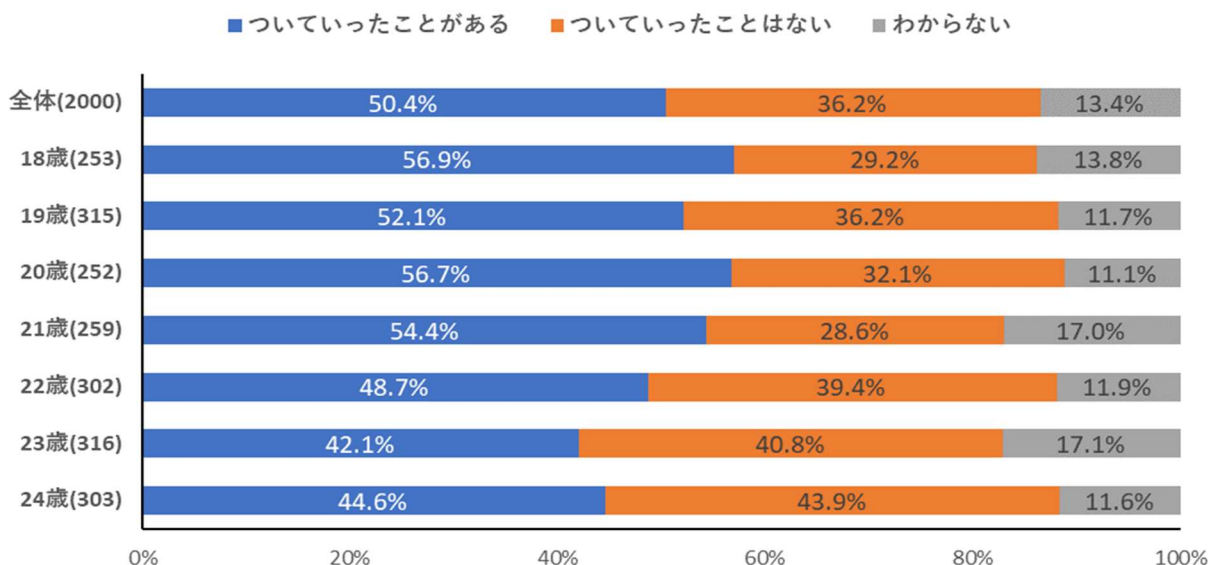
これら以外で「家族との話」は18歳・19歳が他の年齢に比べて多く選択している。反対に「どれも見たり聞いたりしなかった」への選択率は20歳代の方が高い。

	政党や候補者の政見放送、経歴放送	政党や候補者のポスター	政党や候補者のホームページ、ブログ、SNSなど	選挙公報	新聞の政策比較まとめ	ポータルマッチ	テレビ、インターネットなどの党首等討論会	テレビのニュースや報道番組	選挙に関する新聞の記事
全体(2000)	③22.2%	①43.1%	13.1%	17.1%	8.6%	6.0%	9.5%	②26.3%	8.0%
18歳(253)	③23.3%	①47.8%	14.2%	18.6%	9.9%	8.7%	10.3%	②24.5%	7.1%
19歳(315)	②27.6%	①47.3%	12.4%	14.9%	6.7%	2.9%	8.6%	③23.5%	4.8%
20歳(252)	③19.0%	①46.8%	14.3%	17.1%	10.3%	7.1%	9.1%	②29.8%	11.9%
21歳(259)	③20.1%	①35.9%	10.8%	13.9%	8.1%	5.4%	10.8%	②26.6%	6.6%
22歳(302)	②23.8%	①45.7%	15.6%	18.9%	9.9%	5.6%	8.9%	③23.5%	9.6%
23歳(316)	③20.9%	①37.3%	12.7%	17.1%	8.5%	7.0%	8.9%	②28.2%	8.9%
24歳(303)	③19.8%	①41.3%	11.9%	19.1%	7.3%	5.6%	10.2%	②28.1%	7.6%

	インターネットのニュースサイト	街頭演説	公開討論会・合同個人演説会	家族との話	友人との話	その他	どれも見たり聞いたりしなかった	わからない
全体(2000)	16.5%	13.3%	1.8%	11.4%	5.3%	0.6%	10.8%	14.2%
18歳(253)	12.3%	17.8%	2.4%	14.6%	6.3%	0.4%	9.1%	11.5%
19歳(315)	13.3%	12.7%	0.6%	13.3%	5.4%	0.3%	6.3%	14.9%
20歳(252)	17.9%	14.3%	2.4%	11.5%	4.0%	0.4%	10.7%	16.3%
21歳(259)	17.8%	10.0%	1.2%	8.5%	5.0%	0.0%	13.9%	15.8%
22歳(302)	17.2%	13.2%	2.3%	11.3%	7.0%	1.0%	12.6%	14.6%
23歳(316)	20.6%	11.7%	2.2%	9.8%	3.2%	0.9%	11.1%	13.0%
24歳(303)	16.2%	13.9%	1.7%	10.9%	6.3%	1.0%	12.2%	13.5%

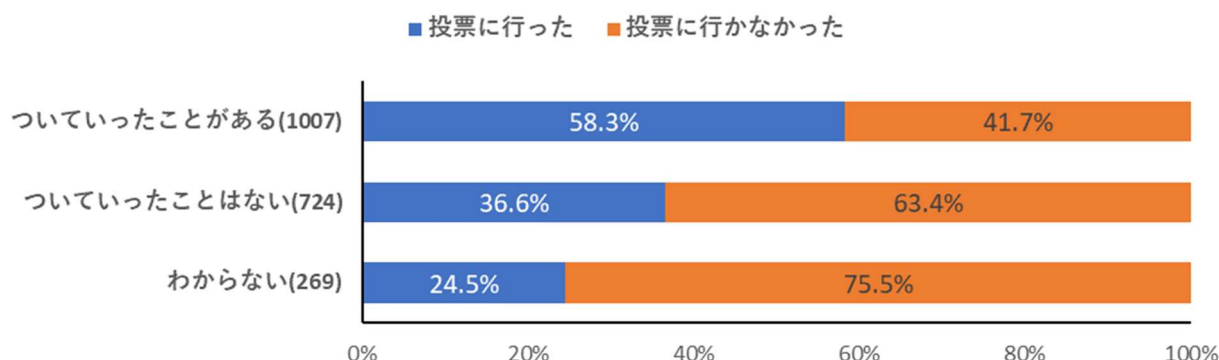
⑬ あなたは子供のころ、親御さんの投票についていったことがありますか。

調査対象者全員に尋ねた。全体で 50.4%の人が親と投票に行ったことが「ある」と回答した（前回は 43.4%があると回答）。



親と投票に行った経験のある人となない人に分けて今回の参院選での投票行動を見てみると、「ついていったことがある」人（58.3%）は「ついていったことはない」人（36.6%）より「投票に行った」と回答した割合が20ポイント以上高い。前回の調査でも同様の結果がみられたことから、幼少期等の体験が有権者となってからの投票行動に一定の影響を及ぼしていると考ええる。

（前回は「ついていったことがある」人のうち67.3%の方が、「ついていったことはない」人では44.8%が投票に行ったと回答した。）



⑭ あなたは高校（高専含む）の時に、次のような授業を受けましたか、またその授業内容は今回の参院選で参考になりましたか。

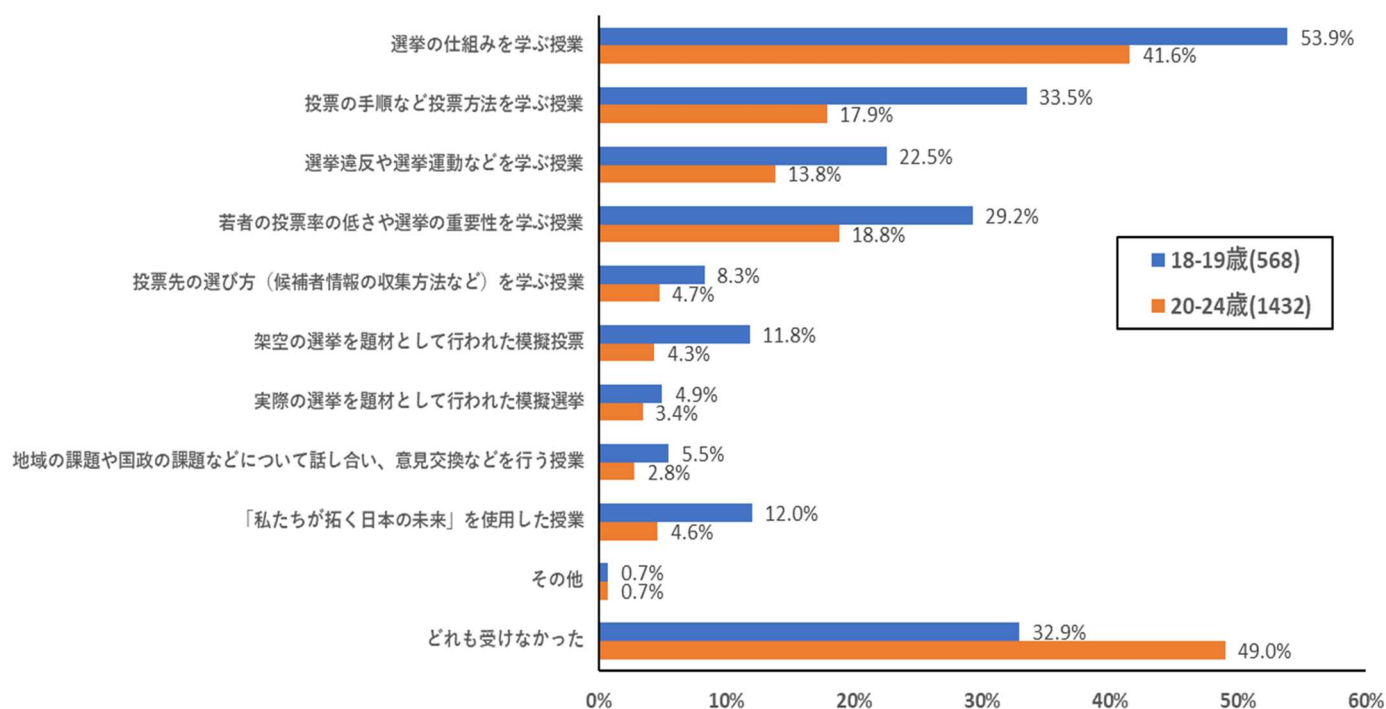
高校生の時に選挙に関する授業等を受けたことがあるか、それは参考になったかを調査対象者全員に尋ねた。高校卒業後間もない「18・19 歳」と、卒業後数年がたった「20～24 歳」との2つのグループに分けて見てみる。

全体的に18・19 歳の人の方が20～24 歳の人よりも選挙に関する授業等を受けたと回答している。

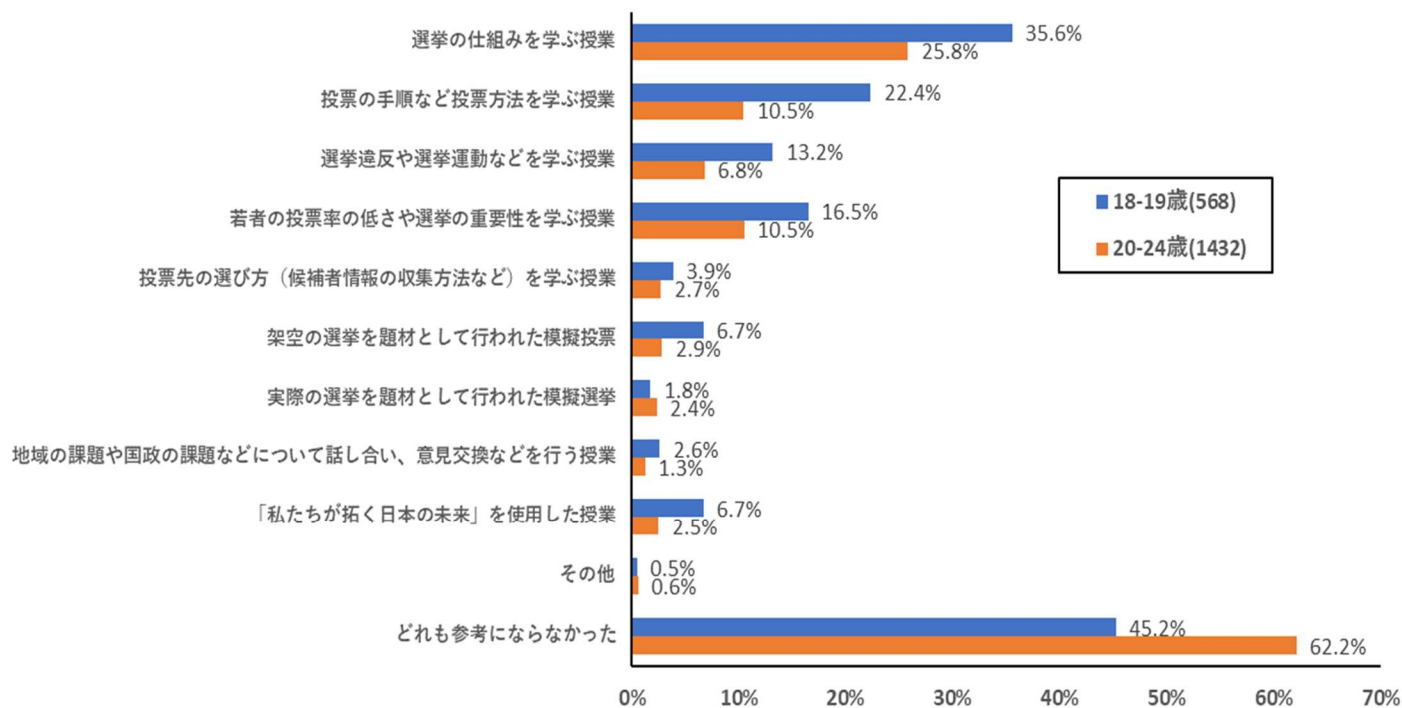
18・19 歳からの選択率が高かった授業は「選挙の仕組みを学ぶ授業」（今回53.9%、前回48.4%）、「投票の手順など投票方法を学ぶ授業」（今回33.5%、前回19.6%）、「若者の投票率の低さや選挙の重要性を学ぶ授業」（今回29.2%、前回23.1%）であった。18・19 歳について、今回はすべての授業等への選択率が前回調査時点の18・19 歳より上回った。また「どれも受けなかった」が減少していることから（今回32.9%、前回39.5%）、選挙に関する授業等が増えてきていることがうかがえる。

参考になった授業等の上位3つについても、上記と同じ授業であった。「どれも参考にならなかった」の18・19 歳の選択率は45.2%で、前回の52.6%から約7ポイント減少している。授業等を受けたと回答した18歳・19歳の半数以上は、当該授業等が参院選に際し参考になっていたこととなる。

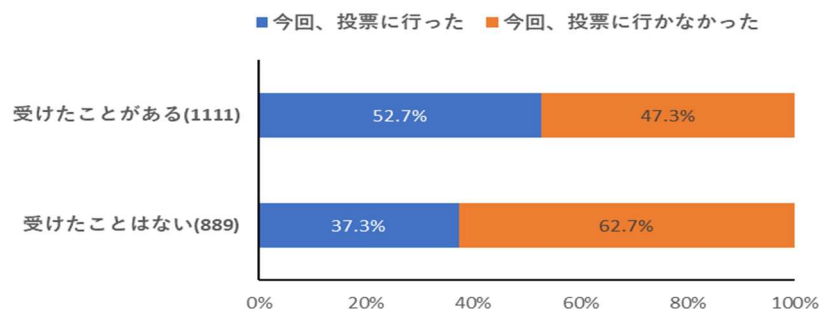
ア 受けた



イ 参考になった



選挙に関する授業等を受けたことがある人となない人（「どれも受けなかった」を選択した人）の今回の参院選での投票行動を見ると、受けたことがある人のうち 52.7%が投票に行ったと回答した。一方、受けたことのない人は、受けたことがある人より約 15 ポイント低い 37.3%の人しか投票に行ったと回答していない。



⑮ 3 年前（2016 年）の参議院選挙で、あなたは投票に行きましたか。

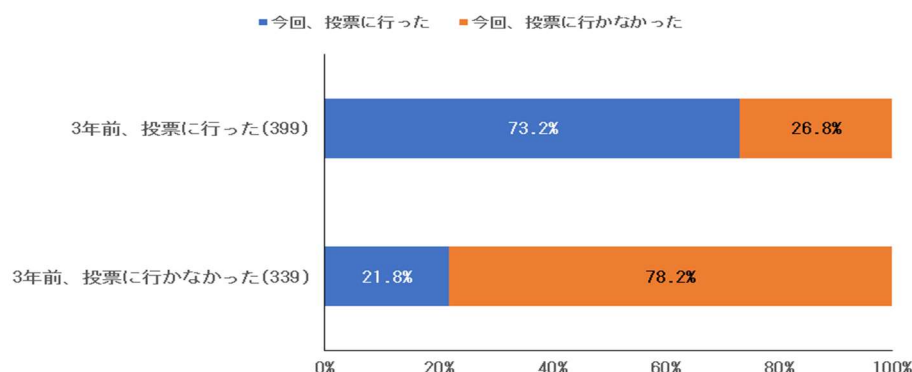
調査対象者のうち 21～24 歳の人（738 人）に、3 年前（2016 年）の参議院選挙での投票行動について尋ねた。

その結果、投票に行った人は 54.1%で、行かなかった人（45.9%）より約 9 ポイント高かった。



3年前と今回の参院選での投票行動を調べてみると、下図のとおり3年前に投票に行った人のうち、73.2%は今回も投票に行ったと回答している。一方、3年前に投票に行かなかった人のうち、今回投票に行った人は21.8%に留まった。

本質問の回答者は、3年前は新有権者を含む18歳から21歳であったため、大半の人は初めての選挙（参院選）であったことを前提とすると、早い段階から投票体験を済ませた人の多くは次の選挙でも投票する傾向があり、反対に初めての選挙で投票をしなかった人の多くは次の選挙でも棄権する傾向が強いことが読み取れる。



⑯ あなたは、現在あなたが住んでいる市区町村に住民票を移していますか。

調査対象者全員にまず「親御さんと一緒に住んでいますか」と尋ね、一緒に住んでいないと回答した人(853人)に「移している」、「移していない」、「わからない」の中から1つ選んでもらった。これを学生と社会人等のグループに分けて前回の調査結果も加えてみると、住民票を「移している」人は、今回、前回とも社会人の方が多いことがわかる。今回も住民票を移している学生の割合は3割程度で、約6割の学生は移していないことを自覚している。

